

歯科衛生士が、全国で活躍中!
2014年活動のまとめ



企業で

メンバーが知り合いのいる企業にかけ合い、歯周病予防講座を開催。ラジオやHPから情報を聞きつけ、「うちでも開催してほしい!」という依頼もありました。



地域で

同じ地区に住むメンバー同士で集まり、地域レベルで活動。自宅マンションや市民センター、カフェ、教会、保育園、美容院……。歯科衛生士の存在を、身近に感じてもらえます。



子育て支援にも

大規模で行なわれる子育てイベントにも参加。親子で楽しみながら、歯周病予防に取り組みます。子どもの未来に目を向けた歯科衛生士は、パパやママにとって心強い存在です。

「お口のお掃除って、歯ブラシだけじゃないんだよ」

「おばあちゃん、歯があるおかげで今年も美味しくお雑煮が食べられるね!」

年末年始、家族や親戚が集まる中でこんな会話を繰り広げた読者DHも多いと思います。Goodbye Perio プロジェクトの活動はその延長線上。「健康な人を増やしたい」という同じ志を持ったDHの輪が、今年も広がることを願っています!

「身近な人たちに伝える」

それがGoodbye Perioプロジェクトの活動です。あなたもメンバーになりませんか?

登録は <http://perio.tuftclub.jp> で!



Goodbye Perio Project

“歯科衛生士にしかできない社会貢献”を続けて3年。当プロジェクトのメンバーは2,100名を超え、歯周病罹患率を下げるための活動範囲はどんどん広がっています。4年目に突入するこの機会に、プロジェクトが発足したストーリーと一緒に振り返ってみませんか?

歯科衛生士に秘められた“力”

「私たちは歯医者さんにいる女の子じゃない。先生の隣でだ液を吸い取るお姉さんでもない!」

すべての始まりは、歯科衛生士たちのそんな想いでした。予防歯科先進国のスウェーデンでは健康を守ってくれる人として信頼され、子どもからも憧れられている職業。

それなのに、なぜ……。

そこで今一度、日本における歯科衛生士の存在意義を考えた。直したことがプロジェクト発足のきっかけです。

では、なぜスウェーデンと日本で違いが生まれてしまうのでしょうか。その答えは、「歯科衛生士のおかげで健康が守られる」という成果を残せているかいないかの差にあります。日本では、予防できる方法を伝えているつもりで伝えきれていないのが現状。毎日の歯磨きを欠かさない人が多いにもかかわらず、その8割が歯肉炎・歯周炎を起こしているという事実もそのひとつです。

フロアフロスを使ったジンジバルブラークコントロールの大切さを人々にしっかり伝達できれば、日本人の口腔内はもっと健康になります。さらに歯周病は、脳梗塞や心疾患、糖尿病を引き起こす一因。歯肉の状態が改善すれば健康な国民は増え、医療費の増大を回避することにもつながります。これは歯科衛生士にできる大きな「社会貢献」。「人々を健康にする」という本来の役割を果たすだけでなく、「国家資格を持った医療従事者」として「健康を守るかけがえのないプロフェッショナル」として認められるチャンスでもあるのです! その目的に向かって走り続けた今、活動の成果は少しずつ花を咲かせています。

これまでに歯周病予防の大切さを伝えた人

51,631人

人々に渡したフロアフロスの長さ

258,155km

(東京-愛知の距離とほぼ同じ!)

新聞や雑誌、ラジオなどに取り上げられた回数

75回

ワタシから家族へ、親戚へ、友人へ……。一つひとつの活動は小さいかもしれませんが、でも、全国の歯科衛生士がみんな取り組めば大きなムーブメントが起きます。自分たちの明るい未来を、自分たちの手でつくっていくのです。